

シグマ委員会核データ専門部会
評価用データベースWG2年度第2回会合議事録

日時 1990年10月12日(金) 13:30~17:30
場所 日本原子力研究所 東海研究所 研究2棟221号室
出席者 岩崎(東北大)、肥田(東芝)、五十嵐、浅見(NEDAC)、
菊池、杉本、成田、千葉、中川(原研)

配布資料

- DBE-90-12 前回議事録(1990年6月21日)
- DBE-90-13 FP核種の核データ評価作業の流れ(中川)
- DBE-90-14 誤差計算結果(杉本)
- DBE-90-15 Hfの評価作業の流れ(肥田)
- DBE-90-16 知識ベース作成の具体例(岩崎)

議事

1. 前回議事録確認

前回(6月21日)の議事録(DBE-90-12)を確認した。

2. 誤差ファイル作成

Feの全断面積の共分散を作成する試みの進捗状況を配布資料(DBE-90-14)で杉本氏が報告した。実験データと評価値があって、評価値の共分散を求める手法として、前回は、SUR法を用いて共分散を求めた。さらにSURP法を用いた計算を行ったがうまく行かなかったのは、実験値同志が全く同じになると、SURP法ではうまく行かなくなるためだった。この場合は、故意にデータの差を大きくするなどの操作が必要である。今回は、実験データが同じになる点を除いて計算を実行し、共分散を得た。次回は、一般化最小自乗法による方法の結果を報告する。

3. 評価用データベース

浅見氏が、JENDL-3の計算パラメータ収集の状況を報告した。年内には、収集作業を終了する予定。次の予定として、パラメータをまとめたJAERI-Mレポートを作成する。そのために必要なパラメータの作表用プログラムを成田氏が、検索用プログラムを中川氏、成田氏で作成することとした。また、パラメータの並べ方について、核種毎にするか、パラメータ毎にするかを議論したが結論が出なかったため、次回さらに議論することとした。

4. 評価作業流れ図

4.1 中重核

肥田氏がHf 評価作業の流れ(DBE-90-15)を説明した。低エネルギー領域ではBNL325 (4th) から分離共鳴パラメータを採用、非分離共鳴領域はASREPでパラメータを決定、高エネルギー領域では、CASTHY、ELIESE、ECIS、GNASHを用いた理論計算を行った。

4.2 FP核種

FP核種の核データ評価作業の流れ(DBE-90-13)を中川氏が説明した。レベルスキーム、レベル密度パラメータ、OMP等の決定、それを用いた計算作業、結果のファイル編集、データのチェックまでの一連の流れを示した。

4.3 評価システム

中川氏が、FP評価で使用した理論計算コードで必要とする入力データと出力データをまとめた表配布資料(DBE-90-13)を示し、「評価システム」作成のためには、入出力データの分類が必要なこと、また、「評価システム」からの各コードの入力データを作成する際は、各データ毎に、統一フォーマットでパラメータをコードに渡し、コードの入力処理の所を修正するか、または、計算コード毎に interface 的な小プログラムを作成するのが良いと提案した。しかし、この提案は、全員の同意が得られなかったため、次回までに、さらに検討して再度提案しなおすこととした。

5. 知識ベースについて

岩崎氏が、配布資料 DBE-90-16 により知識ベース作成について説明した。しかし、今回は時間がなくて、十分に説明できなかつたので、次回にもう一度より具体例を多くして、説明してもらうこととした。

6. その他

- 神田 幸則氏（九大）、深堀 智生氏（原研）にメンバーになってもらうことを決めた。
- 次回は平成2年2月15日または2月22日に東京で行う。